

苫東環境コモンズの
活動をまとめて報告



haskap
NEWS LETTER

～コモンズの現地から発信する～

勇払原野のSPIRIT

コモンズの視線

ニュースレター第28号をお届けします。昭和40年代から50年代にかけて、里山や雑木林への注目が高まりアカデミックな緑地論も活発で、苫東の緩衝緑地もそのような背景のもとで誕生したものでした。また欧米との比較において国民の幸福度をさらにあげるべく、市民一人当たりの公園緑地面積を上げようという施策も次々と打ち出されたものです。しかしこれもいつの間にか下火になって、世はカーボンニュートラルとか再生可能エネルギーに耳目を吸い寄せられ、緑地はそのための燃料や資源に成り下がってしまったかのようです。木を伐って燃やして電力を作ることについて、常識のある、多少計算のできる人ならこのからくりの欺瞞性にはすぐ気づくほどの、意図的なアドバルーンに見えます。緑地というものの見方が、当初の存在効果への理解から利用（経済）効果重視になだれ込むのであれば、いかなるものと危惧するものです。保育と薪づくりによる持続可能な雑木林管理のシステム形成は、これからの北国の時代を生き抜くうえで生活の現場に立脚した単純明快な知恵のようなものですが、これが試されている、と覚えてなりません。（草薙） HP <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html>

TOPIC 1

近くからドロノキが混じった丸太届く



苫東緑地の保育で調達していた丸太の安定供給を内外に要望してきた当NPOに、関係者を通じて近傍の雑木

林で産出した材の提供申し入れがあって搬入してもらいました。ところが予想以上に量が多く、かつドロノキを相当量含んでいるように見えたので、対応をかなり工夫する必要が出てきました。

幹に付着している泥は、チェンソーを使う前にタワシでこすって取り除くことで回避しましたが、そもそもドロノキは薪材として熱量も低く嫌われるため、近頃はやりのキャンプ用薪として別扱いにはどうか、というアイデアが出され何束か制作してみました。しかし実用の乾燥試験をしているあつという間に夏は過ぎ、焚火の適期を逃してしまいました。

その後、玉切りと薪割りを進める過程で、ドロノキの混入割合は実はさほど高くなく、ほかの広葉樹材とうまく混ぜれば従来のブランド「勇払原野の雑木薪」と遜色がないことが判明しました。かつ、この供給のおかげで薪づくりは作業を迫られることなくマイペースで保育作業を進められるとみられています。

TOPIC 2

川エビを採って食し風土を噛みしめ

コモンズにおける森づくりは、広葉樹の除間伐に勢力を傾けることが多いですが、実は勇払原野の奥深い風土全体と親しむことも大切な活動とみています。近年は会員の高齢化が進んだので作業中心から山菜取りなど季節を楽しむことにも時間を割くようにしています。

今シーズンはこれに川エビを加えました。雪解けのころ、ウトナイ湖や近隣河川で川エビを採取し食した

ことを思い出し、長さ1mほどのドウを自作し仕掛けて試してみたところ、ほどほど採ることができました。弁天浜のサクラマス・フィッシングなどもこの範疇に入ります。



風土の四季の産物であるフキノトウ、アイヌネギ、スドキ、ワラビ、コシアブラ、ポーファー、ハスカップ、そして多くのキノコに新

たに川エビが加わったことで、勇払原野の格別の味わいが一つ豊かになったようです。

TOPIC 3

研修で後志の森づくりを見て回る



新型コロナの蔓延によって昨年から再三中止と延期を繰り返した森づくり研修。今年は予防策を講

じながら蘭越の「硫酸山」と倶知安の公有林などを視察しました。

硫酸山は、強酸性土壌で樹木の生えない土工跡地に、土地所有者の下島亘さんがコソコソと苗木を植えて植生復元を計ってきたものです。隣接するトドマツ林では中嶋潔さんのガイドで予想以上に多種類のキノコに出会い、トドマツ林の底力を知ることができました。

このあと、道有林のブナとカツラの珍しい人工林等を案内してもらい、今年の森づくり研修を終えました。コロナ過で参加者が例年の半分近くになりましたが、よその森を見学するのは、森づくりを志す者にとってまたとない楽しみで、来年の研修が期待されます。

TOPIC 4

「コモンズの悲劇」避け、新入会を留保



道内外を問わず、昨今は薪ストーブが静かなブームになっていますが、燃料の薪は全国的に安定供給とはい

かず、どこも地域の特徴を活かしてなんとかしているのが現状のようです。

苫東コモンズでは、約20名の会員のうち、半数が薪ストーブを利用して、雑木林の除間伐作業の途中から薪生活に転換した人も数人います。このような副次的に薪が発生するのはコモンズ林業の特長であり、昨年は薪ストーブ生活を林の手入れという最初からフルスケールで体験したい、という希望者が相次いで入会しました。森林科学に造詣の深い人が多いのが特徴です。(写真はJ R社内誌6月号に紹介の活動風景)

ところが苫東コモンズが手入れするエリアは毎年限定的で、かつ、年によってはツル伐りや除伐ばかりで薪などが出ない場合も多いため、薪も譲り受けたいという入会は当面制限することになりました。まさに「コモンズの悲劇」になりかねないからです。これを打開するためには、コモンズのような地域と一体になった身近な森づくりの取り組みが他にも複数展開されることが必要で、薪は手入れの副産物として産出するという、身近な森林の修景と薪の需給を調整する「仕組み」と「保育技術」が求められます。苫東コモンズはその担い手養成も担ってきたと言えるでしょう。

TOPIC 6

シカ食害の試験地、天然更新でヤブに変身



雑木林の萌芽更新とシカの食害をトレースしてきた試験地が、電気牧柵の撤去から1年以上を経て、高さ3mほどの高密度

のブッシュに変貌しました。現在はヘクタール20万本近いシラカバが優先しており、コブシ、ナラなどの実生も旺盛に成長しています。

アセスメントで保全を目的化されたミズナラ・コナラ林の存続手法の試験が本当のねらいですが、現状のシカの密度であれば、このような小面積皆伐で十分更新が可能であることが実証されたこととなります。

今後は高樹齢になってしまった雑木林で大径木の風倒木発生が予想されますので、このような小面積皆伐を実施し、風倒木処理と周辺の掛かり木撤去を繰り返すことで、森林の若返りに繋がる一つの打開策として注目していくこととなります。

令和3年5月以降の主な活動

*行事末尾の数字は参加者数

- 5/01 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 (コモンズ休暇=14:00~川エビ回収とボーファー@勇払海岸) 11
5/08 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 12
5/10 mon 第28回理事会 4
5/15 sat 薪割り+玉切り作業@大島山林 (コモンズ休暇 m2:00-スドキ、コシアブラ+ボーファー?) 11
5/19 wed コモンズに関するヒアリング対応 (事務局)
5/22 sat 大島山林で薪割りと薪積み 8
5/29 sat 大島山林で薪割りと薪積み 2
6/05 sat 大島山林で薪割りと薪積み 6
6/06 sat 自治会、刈り払いNPOと3者打ち合わせ 2+10
6/12 sat 大島山林の玉切り、フットパス刈り払い、薪積み 11
6/16 wed ~18fri 『ハスカップとわたし』市内の小中高校、大学図書館等へ寄贈のため発送
6/19 sat 大島山林の玉切り、フットパス刈り払い、薪積み 9
6/26 sat 大島山林の玉切り、フットパス刈り払い、薪積み 9
7/03 sat 大島山林の玉切り、フットパス刈り払い、薪積み 10
7/10 sat 大島山林の玉切り、フットパス刈り払い、薪積み 12
7/17 sat つた森山林山林でハスカップ摘み 39
7/24 sat 大島山林の玉切り、刈り払い、薪積み 13
7/31 sat ~ 8/14 sat 合同作業は夏休み
7/31 薪棚パレット材の搬入 3
8/21 sat 大島山林の薪作業 11
8/21 sat 大島山林の薪づくり作業 11
8/28 sat 森づくり研修@後志地域 9
9/04 sat 大島山林の薪づくり作業 13
9/11 sat 静川の小屋掃除+コモンズ休暇・キノコ観察 8
9/18 sat 大島山林 3
9/19 sun " 4
9/20 mon " 1

*昨年 9/26-4/24=306名、5/1 から 9/20 まで 235名、延べ約 541名

編集後記

日本全国、空前の薪ストーブブームのようで、Facebook の薪グループ情報は各地の薪事情が見えて圧巻です。友好団体の札幌ウッドーズさんはこのところ20人近い入会があつて動機は薪のようだ、事務局のSさんに伺いました。世はAIが高度な仕事を引き受ける時代、人間は限りなく手間のいる薪に目が行くとは。従って薪不足が発生している模様で、苫東コモンズも盗難に気を配ってきました。放置山林が多く薪需要も多いのなら、コモンズ林業のような取り組みが活路のひとつと言えそうですが、この方式はどうも「奇跡」のような偶然の上に建てつけられている、というのが真相です。そのよって立つ基盤は非常に危ういもので、土地所有者の信託を得るに足る自己証明と誠意ある活動が肝。地味だけど壮大な社会実験だと感じる由縁です。苫東コモンズのフィールドがヒグマやエゾシカや多くの野鳥をはじめとする動物王国である現状は変わっていません。その評価は次第と定着して来て、少々なことでは驚かない、もはや季節の風物詩の一つでしかありません。こんな日常的に遭遇する「生物多様性」に、行政や市民サイドで独特な評価をそろそろ与えるべき時も近そう。(草苺)

お問い合わせ
NPO 法人苫東環境コモンズ 事務局 草苺 健
雑木林&庭づくり研究室 http://havashi-kokoro.com/
kt-884-556@nifty.com 携帯 090-6999-2765